

令和3年度 学校評価自己評価表（最終評価）

ミッション 〇持続可能な三次のひとづくりを担う。 (SDGs人材の育成)		ビジョン 学校教育目標 「知性・人格・勤労を尊び、自律と貢献の志を持つ児童生徒の育成」 〇地域・保護者等と連携協働し、地域をフィールドとした教育活動を展開することにより 他者と協働して、より良い三次を創造する人材を育てる。												三次市立十日市中学校	
評価計画										自己評価		学校関係者評価		改善計画	
b 中期経営目標	担当	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
高い知性	自己学習能力の向上	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な授業研究（一人1回） 縦割り合同授業（ノート指導等の学び方） 	定期試験における知識・技能の観点達成率	60%以上	60%以上達成試験数 66.7%	60%以上達成試験数 62.7%	62.7%	B	〇2学期期末試験のうち、知識・技能の観点達成率60%以上の試験は、1年で60%、2年で55.5%、3年で72.7%であった。思考・判断・表現の観点達成率60%以上の試験は、1年で50%、2年で77.7%、3年で54.5%であった。新型コロナウイルス感染症対策で、十分にグループ活動や体験活動が行えなかったり、欠席が続くことで、授業についていけない生徒がいたりした。しかし、異年齢で学び方について交流することで、勉強法を改善するなど工夫する生徒は増えつつある。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇異年齢の学び方の交流により、勉強法の改善が見られることは評価される。 〇本校の生徒の学力実態はどうか、全国・県・三次市等各種学力テストの結果を踏まえ、成果と課題を明確に示してほしい。 〇縦割り合同授業等、生徒の学びを広げる取組を継続されるとよいと思います。 〇知識・技能の達成率が、2年生で55.5%であること、思考・判断・表現の観点には、知識・技能が必要という法則が当てはまらない状況が見られます。何か原因があるのでしょうか。 〇どちらも「f 目標値」と「h 達成度」の関係がわからない。h ÷ f × 100%なら「i 評価」は100%以上でAだと思います。次年度は目標値をあげられ、改善策を活かしてください。 	〇反復学習や小テスト等、帯学習を充実させることで基礎学力の定着を図る。 〇計画的にパフォーマンス課題を実施することで、生徒の表現力を高める。 〇グループ活動や体験活動を授業内に意図的に仕組んだり、ICTを効果的に活用することで、生徒が互いの意見を出し合い、深い学びにつなげるようにする。	
				定期試験における思考・判断・表現の観点達成率	60%以上	60%以上達成試験数 54.5%	60%以上達成試験数 60.7%	60.7%	B						
		読書意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 図書室の整備 計画的な啓発 	1ヶ月の読書数	1冊以上	一冊以上の達成率 56.0%	一冊以上の達成率 58.2%	58.2%	C	〇2学期末に行った生徒アンケートでは、1年生72%、2年生47%、3年生55.6%であった。図書リレーを通して、全生徒が「文字に触れる機会」を設けることができたが、朝読書の時間に集中して読書をさせる取組がさらに必要である。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇朝読書を中心に読書活動に前向きに取り組む学校全体での雰囲気づくりに期待したい。 〇時間的制約もあると思うが、「読書学習」の場面も設定し、自己学習の楽しさを体験させてほしい。 〇コロナ禍で読書がどうそのものが難しい中で、工夫して取り組まれています。 〇2年生の読書の割合が他の学年に比べて低いのはなぜでしょうか。 〇読書冊数1か月に1冊も読まない生徒が多いことに驚きます。実際大人でも文字離れが進んでいます。本の楽しさ、喜びを見つめられるよう今後ともよろしく願いいたします。 	〇図書委員会や広報文化委員会を中心に読書推進の取組や広報活動を行う。具体的には、おすすめの本の紹介を掲示したり、放送したり、朝読書の時間に全員が読書に取り組めるよう、学級文庫を充実させたりする。また、図書リレーの頻度や内容をさらに工夫し、「文字に触れる機会」を増やしていく。	
三点固定の確立	<ul style="list-style-type: none"> ティリーライフによる評価・啓発 保護者啓発 	生活習慣（起床時刻・家庭学習時間・就寝時刻）の固定割合	85%以上	75.0%	80.3%	94.5%	B	〇2学期に行ったアンケートで「生活リズムがたいたい固定している」の項目で肯定的な評価が1年生83%、2年生84%、3年生74%であった。1学期に行ったアンケートよりどの学年も肯定的な評価が増加している。ティリーライフによる評価や定期試験で学習の計画を立てることで増加していると考えられる。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇三点固定生活リズムの確立に向けて成果も表れている点は評価する。 〇20%未満の未確立生徒の指導には、家庭への啓発・協力が必要だと思います。ティリーライフ等によりきめ細やかな指導をお願いしたい。 〇既存の取組を効果的に活用し、生徒が自らの生活リズムを振り返る活動は効果があると思います。 〇肯定的評価が増加し、取組の成果と考えます。これからも具体的な評価、保護者への啓発を続けてください。 	〇学校からの生徒への対応はティリーライフや試験計画を自分で考えさせることを継続し、さらに、来年度は保護者への啓発の仕方を具体的に考え、三点固定の確立をしていきたい。			
うるわしい人格	自己指導能力の育成	生徒指導諸問題の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> 規程に基づく対応の徹底継続 個に応じた組織的な指導対応 	不登校生徒数	前年度数より4名以内	0%	76.1%	76.1%	C	〇30日以上欠席者は、1年生5名、2年生8名、3年生8名であった。年度当初は不登校生徒数前年度比半数としていたが、既に目標値を超えたため、前年度不登校者より4名以内の16名と目標値を修正した。コロナ禍で欠席者が増加したことも要因と捉える。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇新型コロナウイルス禍に伴う生活環境の変化による不登校生徒の増加は、全体的な傾向であるが、個々の生徒の背景を明らかにし、個に応じた取組を進めるより解決の方法はないと思われる。関係機関との連携・協力を図りながら、減少に向けた努力をお願いしたい。 〇2年生を中心とした生徒指導上の課題が起きているようですが、いろいろと取組を重ねられ成果も見られるようです。職員意識統一、迅速な対応、一貫した指導に配慮し、未然防止に努めてください。 〇不登校、問題行動ともに広島県全体でも増加傾向にあると思います。保護者参観等様子を見ていただく取組は大切だと思います。 〇徐々によくなってきているということではありますが、目標値である100%には達していないことから、〇評価ではないかと思いたいです。 〇欠席者21名→16名、不登校5名減っています。達成度76%→83%人学校へ来たというところでしょうか。不登校に聞いている学校だけの問題ではないところが多いので、指導としても難しいです。問題行動については、1学期46件、10月～12月55件、これだけで100件をこえます。複数体制での指導、時間がなくて素直にしたいです。保護者への周知も引き続きお願いします。 	〇不登校への取組では、コロナ禍で、感染不安を理由とした欠席も増えつつあるので、集団で活動することのよさを味わわせるとともに、規則正しい生活リズムの大切さを意識づけさせる。また、長期欠席の生徒には、週に2回程度で家庭連絡や家庭訪問を行うなど、学校との連携を切らないようしていく他、オンライン授業の活用を充実させていく。学校だけの対応では難しい部分は積極的に関係機関等との連携を進める。 〇規範意識を高めるため、年度初めに生徒指導規程の内容を生徒と保護者に周知徹底する。とりわけ全職員が内容を十分理解することも必要である。全体で決めたことは、全職員が必ず行うことを徹底する手立てを講じる。	
				諸問題認知解決指導100%	100%	46件中44件	94件中10件	94.0%	B	〇10月～12月で問題行動が55件と激増した。特に2年生は37件となり未解決の案件もいくつか出ている。課題解決に向けては保護者自由参観週間や保護者懇談等により学校への関心をもっといただく機会をつくった。また落ち着かない学級では教員が複数体制で授業を行った。3学期になり落ち着きを取り戻してきたが、さらに6件の問題行動が生起するなど取組の強化が必要である。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇「生活のきまり」を守る規範意識は、繰り返し指導に尽きるといいます。生徒会からの指導も増え、あたりまえのことがあたりまえにできる学校の雰囲気を感じてほしい。 〇取組の成果が出ていると思います。 〇目標ほぼ達成ということで、今後も十日市中学校生徒の基本チェックをお願いします。校外でもよく挨拶をしています。 	〇生徒会委員会や執行部との連携をして生徒自らで改善していく工夫をしていく。 〇生徒指導部の付き目標と委員会との目標の一致を図る。 〇教員の意識を統一し、全員で取り組む姿勢が必要である。	
		自己調整力の向上	月間目標設定による啓発	十日市中学校生徒の基本チェック	23/26項目以上の生徒80%以上	47.6%	68.7%	85.8%	B	〇3学期になり、各クラスの欠席者が多かったため全員記入というところまでいかなかった。出席した生徒のみで集計した。1年生66.6%、2年生68.3%、3年生71.4%となった。3年生を中心に受験の意識が高まり自己評価が高くなった。また、各礼の全員着用や正門での挨拶運動の成果もあったと考えられる。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇「生活のきまり」を守る規範意識は、繰り返し指導に尽きるといいます。生徒会からの指導も増え、あたりまえのことがあたりまえにできる学校の雰囲気を感じてほしい。 〇取組の成果が出ていると思います。 〇目標ほぼ達成ということで、今後も十日市中学校生徒の基本チェックをお願いします。校外でもよく挨拶をしています。 	〇生徒会委員会や執行部との連携をして生徒自らで改善していく工夫をしていく。 〇生徒指導部の付き目標と委員会との目標の一致を図る。 〇教員の意識を統一し、全員で取り組む姿勢が必要である。	
計画的な放課後活動習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 部活動方針に基づいた指導対応 保護者啓発 	アンケート「放課後の時間が充実している」	80%以上	88.0%	84.3%	105.0%	A	〇2学期に行ったアンケートによると肯定的な生徒は、1年生84%、2年生83%、2年生86%であり、平均84%となった。1月中旬よりコロナ感染症予防のため、部活動等が中止されているが、3年生は立志学習会を、1・2年生は部活動を再開してほしいと考えている。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇コロナ禍の中、部活動も制約される中ですが、学校生活の中のストレス発散のためにも伸び伸びとした放課後時間を送らせてやりたいものです。 〇日常的な取組が成果につながっていると思います。 〇目標達成、引き続きよろしくお願いします。可能であれば放課後ボランティアなどあると有意義と考えます。 	〇部活動の練習時間の確保するため、日課の見直し等を進める。 〇放課後の補充学習等、普段の学校生活に生かされる時間を確保する。			
たゆまぬ勤労	社会貢献意識の向上	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会の日常活動の企画（各委員会で1企画） 	アンケート「生徒が学校の主人公になっている」	80%以上	73.0%	81.3%	101.6%	A	〇2学期に実施したアンケートにおいて肯定的に回答した生徒の割合は、1学期のアンケート結果と比較すると1年生77%→84%、2年生68%→72%、3年生75%→75%と、全学年において増加傾向にあった。2学期には、学年体育大会や文化祭が実施され、生徒会を中心とした活動の場が多く、また、その活動を互いに認め合う場面が多かったためと考えられる。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇長期的なコロナ禍の中でも、体育大会・文化祭等工夫した取組により生徒相互の連帯感、所属感等に一定の成果が見られたことを評価したい。 〇創意工夫しながらの取組が、奏功していると思います。 〇目標達成、各委員会活動が生徒会全体の取組になるよう指導をお願いします。「まったく当てはまらない」と回答した生徒には関わりを深め、なぜか聞いてからの意欲付けをお願いします。 	〇生徒会活動を委員会に所属する各委員のみで実施するのではなく、生徒会全体を巻き込んだ取り組みとなるよう、執行部が計画・立案してきた結果と思えるため、新執行部を中心に活動を進める。 〇アンケート質問項目に対し、「まったく当てはまらない」と回答した生徒の割合が約6%であった。一人一人が生徒会活動に関わることができ活動を仕組み、その割合の減少を目指す。	
		ボランティア意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 校内ミニボランティア 地域連携による活動紹介と啓発 	ボランティア活動参加生徒割合	年間2回以上参加の生徒80%以上	*****	36.6%	45.8%	C	〇2学期に入りコロナ感染症が落ち着く中で、校内ボランティアを複数実施した。全校生徒の中で参加した生徒は延べ113名であった。コロナ禍で校外で参加できるボランティア活動がほとんど無く、参加機会が限られたため、評価を行うには難しい実態がある。	〇	〇	<ul style="list-style-type: none"> 〇校外でのボランティア活動が困難な中、校内ボランティア活動は推進され、約3割の生徒の出席があったことは評価できます。温かい思いやり心をもった生徒の育成につながったものと思います。 〇自己評価のとおり、コロナ禍においては機会の設定が難しいと思います。 〇新型コロナウイルスの中で、ボランティアはなかなか難しく、やりたくてもできなかったのではないのでしょうか。 〇ボランティアへの興味・関心が高いようなので、十日市民児協や、すみれ会などの外部との連携を引き続き進めていってほしいと幸いです。 	〇現在のコロナ状況の中で、2学期以降だけで全校生徒の約3割が一度はボランティア活動に参加しており、社会貢献への意識は高いといえる。今後は情勢が落ち着けば、機会を捉えてボランティア活動への参加する機会を紹介し、自己有用感を高めさせる一助としたい。	

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】

イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。